

一般財団法人日本エスペラント協会（JEI）

2021年度事業報告

I 事業概況

【0】基本方針・重点課題と成果

1. 第2世紀に歩み出した本会は、会員の拡大、定着を目指し、事業・運営方法の改革を図り、築後43年経たエスペラント会館については、「エスペラント会館検討委員会」を発足させ、考えられる将来像の比較検討を進めた。
2. コロナ禍をきっかけとした新しい形のエスペラント活動はオンラインの効果的活用により前進し、日本エスペラント大会史上初の完全オンラインの第108回日本エスペラント大会（広島）も実施した。
3. 多言語・多文化共生時代におけるエスペラントが果たす役割について、外部団体のイベントの紹介なども通じて、エスペランティストへの啓発を推進し、エスペラント界外の組織、団体との協働、連携も進めた。
4. 各部の活動を活発化させるための新たな部員の勧誘はオンラインの活用により一定程度の成果を上げたが、不十分な面は否めず次年度に引き継ぐ。
5. 「ロシアによるウクライナ侵攻に関する声明」を2022年3月29日に発表した。

【1】エスペラント普及事業（担当：普及推進部）

【1.1】基本方針と成果

1. 国内外のエスペラント組織と連携し、エスペラントの存在意義、魅力を伝え、エスペラントを普及する活動に取り組んだ。
2. 当会会員との連携を強化し、会員以外の個人、団体とも協働の輪を広げ運動を発展させる活動に取り組んだ。
3. エスペラント界外との連携、協働を進める活動に取り組んだ。
4. 広報委員会の活動を軸として一般への効果的なエスペラント広報活動を進める活動に取り組んだ。

【1.2】エスペラント普及推進事業

1. 国内のエスペラント運動の現状を把握し活性化に寄与した。
 - (1) 『La Revuo Orienta／エスペラント』（RO誌）2021年4月号および7月号に発表した「運動年鑑」により連絡網を提供した。日本エスペラント大会などの参加割引による、新たな人とのつながりづくりの枠組みを継続拡大し、活動を支援した。
 - (2) 広域、地域、専門、学校関連の各エスペラント団体と連絡を取り合い、活動状況の情報を収集し、RO誌2022年4月号に「2021年エスペラント運動年鑑」として発表した。
2. 各種エスペラント団体と協働し、各エスペラント団体の活性化に寄与した。

- (1) 地方エスペラント大会（全国の7大会のうち2つの大会がコロナ禍のもと実施された）に理事長挨拶を送り、両大会に理事が出席した。
 - (2) 「エスペラント会懇談会」メーリングリスト（FLES）は継続し、情報共有機能を維持した。展示資料、広報チラシ等の資料整備は進展しなかった。日本エスペラント大会での会合は、「エスペラント活動発表会」に模様替えし、経験交流の場を提供した。
 - (3) 広報委員会主催分科会を日本エスペラント大会にて開催。ウェブサイトによる広報についての啓蒙・経験交流の機会を提供した。
3. 会員の拡大・定着に努めた。
- (1) 2022年3月31日現在で団体会員52（4減）、個人会員915人（37減）。個人会員の内、新入会員40人（再入会を含む）、電子版会員49人（4減）、青年会員52人（7増）。2022年1月1日現在で、個人会員の内、71歳以上416人（12増）、30歳以下31人（9減）。
 - (2) 青年エスペラント企画支援金は活用の機会がなく、青年エスペランティストの派遣促進による、エスペラント会への支援も進められなかった。
 - (3) 第39回東アジアエスペラント青年セミナー主催を担った青年グループに対して、青年支援基金（国際的な青年エスペラント行事の開催事業）を適用し、活動を支援した。
4. 運動への功績日本エスペラント大会で、功績があったエスペランティストとして、やましたとしひろ（belmonte）氏に小坂賞を授与した。さらに、同大会において、JEI永年会員の表彰や、主要団体の活動報告や表彰の場を設け、運動への貢献や功績を広く共有した。

【1.3】エスペラント広報事業

広報委員会会合を12回開催した。

1. 本会ウェブサイト：広報委員会からの情報や、行事・講習会情報を一般向けによりわかりやすく提供した。
2. 主催行事（大会、講演会、講座、コラボ）について、SNSを用いて広報した。
3. マスコミ向けのニュースリリース「エスペラントの今」を2回発行した。2021年8月『広島・長崎の心を世界へ』（23号）、2022年3月『エスペラント語での東アジア青年交流』（24号）。それぞれRO誌に転載。
4. 広報材料の拡充に努めた。
 - (1) エスペラントを効果的に紹介する活動として、「エスペラントの日」記念講演会内容および第4回エスペラント紹介動画コンクールを動画サイトで公開した。
 - (2) 第4回エスペラント紹介動画コンクールを開催した。入賞3件のうち一般からの応募2件だった。簡潔にわかりやすい表現でエスペラントの魅力を伝える手段を増やせた。
5. 外部行事への参加はコロナ禍もあり実施できなかった。多言語・多文化共生時代を意識した、外部の団体との交流や協働として、一般社団法人日本外国語教育推進機構（JACTFL）主催のオンライン多言語教育シンポジウムへの協力と、同研究会誌への広告掲載を継続した。
6. 世界的な「エスペラントの日」（『第一書』の発表された7月26日）や、日本の「エスペラントの日」（6月12日）を機会とした、広報活動を行った。
7. 世界エスペラント協会による広報での協力・協働を行った。
 - (1) ユネスコ「国際母語の日」の日本語版広報資料の作成を行うとともに、アイヌ語、沖縄語関係

者と協働をした。

- (2) 世界エスペラント協会・世界青年エスペラント機構の「ウクライナでの戦争被害者に対する支援」の呼びかけに対する姿勢を広報した。
8. 広報効果が期待できる『地球の歩き方ムー』や外部の動画講座、アニメーションとの協力に取り組んだ。

【2】エスペラントを用いた国際交流事業（担当：国際部）

【2.1】基本方針と成果

1. 世界エスペラント協会（Universala Esperanto-Asocio = UEA）の日本における国別代表組織としてのエスペラントによる国際交流事業、UEAのアジア・オセアニア委員会（Azia-Oceania Komisiono = KAOEM）、日本のUEA委員、UEA-delegito（都市代表者）との協働を実施したが、その多くは、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響を受けた。
2. 11月13日、14日にリモートで開催された第39回東アジア青年セミナー（KS）に青年支援基金金を支給し、支援した。

【2.2】国際交流事業

1. 2021年に開催される国内外のエスペラントによる国際交流行事への参加・協力を呼びかけたが、コロナ禍の影響で行事の多くがネット開催に変更されたり中止された。
- (1) 第106回世界エスペラント大会（UK、イギリスのベルファスト）はコロナ禍で現地開催を見送り、第2回バーチャル大会（VK）として開催された。VK中、7月18日「アジア・オセアニアの日」に参加し、また7月22日、23日、24日のMovada Foiro 枠内の「JEIの日」に参加した。また本会理事長が5大陸中アジア代表として挨拶した。
- (2) 第39回東アジア青年セミナー（KS）が日本の青年有志による実行委員会が主催してネット開催された（11月13日、14日）。本会が技術面・資金面で開催に協力した。
2. 日本エスペラント大会で、「アジア活動分科会」をオンラインで実施した。
3. 日本のエスペランティストへの支援として、国際文通サービスを継続し、11件を仲介した。
4. KAOEMの機関紙 Esperanto en Azio kaj Oceanio 111号は5月9日に、112号は2022年1月に、本会が協力して印刷・発行し、その購読（UEAアジア・オセアニア基金への寄付）を呼びかけた。

【3】エスペラント研究教育事業（担当：研究教育部）

【3.1】基本方針と成果

1. 教育部門は、オンライン会議システムを用いて地域を問わず、エスペラント学習者の語学力向上の支援を行うことができた。
2. 研究部門の発表は従来形式で行い、新方式の試行には至らなかった。
3. 芸術分野の振興を図るため、コンクール等の施策を行った。
4. 八ヶ岳エスペラント館は、新型コロナウイルス感染症が落ち着きをみせた後半のみ開館した。

【3.2】研究教育事業

1. オンラインでの学習や学習支援を充実させる目的で、下記を実施した。
 - (1) ウェブ教材「ドリル式エスペラント入門」の活用を推進し、学習支援事業を継続した。
 - (2) 遠隔地からでも参加できるオンラインセミナーを3回実施した（10月23日：参加者8人、11月20日：参加者10人、2022年2月26日：参加者10人）。
2. 学力検定試験を実施し、エスペラント学習者の語学力向上に貢献した（7月11日：川崎2人、日本エスペラント大会はオンライン開催のため、未実施。2022年3月26日：仙台2人、倉敷4人、東京8人）。検定基準の明確化を目指した報告書と新基準が提案された。
3. UEAの主催するKER試験（ヨーロッパ言語共通参照枠CEFR準拠のエスペラント試験）は、試験実施機関（ハンガリーのITK）とUEAの事情により、実施されなかった。
4. 日本エスペラント大会で研究発表会を実施し、ウェブ形式で1件の発表があった。文芸コンクールを実施し、入選作（エスペラント原作4点、翻訳1点）を表彰した。

【3.3】八ヶ岳エスペラント館における事業

1. 新型コロナウイルス感染症対策を実施して、宿泊定員を減らし、安心・安全な利用ができるように運営した。
2. 快適な宿泊研修活動ができるよう、外壁塗装および設備更新を行い、館の保全を図った。
3. エスペラント漬け合宿（NEK）等の研修は、コロナ禍のため実施しなかった。

【4】エスペラント雑誌の刊行事業（担当：編集部）

【4.1】基本方針と成果

1. 雑誌『エスペラント／La Revuo Orienta』（RO誌）を年11回発行し、エスペラントの普及発展に資した。

【4.2】雑誌刊行事業

1. RO誌を毎月（8、9月は合併号）刊行した（電子版、音声版を含めて）。発行部数は年度当初は1100部、年度最終は1000部。
2. 他部門と連携し、特集号を発行した：4月特集（2020年エスペラント運動年鑑）、2022年1月号特集（第108回日本エスペラント大会報告書）。
3. 編集会議を、拡大編集会議1回を含めて、年11回、オンラインで実施した。

【5】図書等刊行・頒布事業（担当：出版部）

【5.1】基本方針と成果

1. エスペラントの学習、エスペラントに関する文化の発展、エスペラント普及に資する図書出版活動を行った。
2. 内外のエスペラント図書を仕入れて販売した。また内外のエスペラント雑誌購読を取り次いだ。

【5.2】 図書刊行事業

1. 図書の発行

(1) 阪直氏ホームページ『週刊やさしい作文』の出版は具体的な進展がなく次年度に持ち越した。

2. 今後の出版物の計画

(1) 新日本語エスペラント辞典の編集委員会を毎月1回オンライン会議で開催した。現在まで通算32回開催した。2026年刊行を目指し取り組んでいるが若干遅れる見込み。

【5.3】 図書頒布事業

1. エスペラント書籍・雑誌の販売、取次を行った。

【6】 エスペラント大会主催事業（担当：大会組織部）

【6.1】 基本方針と成果

2021年の日本エスペラント大会を開催し、また同大会を毎年継続して各地で開催できるよう大会開催候補場所の検討、交渉を進めた。

【6.2】 日本エスペラント大会主催事業

1. 第108回日本エスペラント大会を開催した。

(1) 開催日：2021年9月18、19、20日（土、日、月祝）。

(2) 開催方法：完全オンライン開催

(3) 共同主催団体：広島エスペラント会

(4) 当初会場開催を予定していたが、コロナ禍のため2021年5月に断念し、日本大会としては、初めて全面オンライン（Zoom、Jitsi使用）で開催した。このため、臨時に「大会技術班」を組織し、実行委員会と連携して、準備と当日の配信のサポートを、全国各地の分散拠点から行った。

(5) 大会テーマ：La mondon ligas animoj de Hiroŝimo ヒロシマの心を世界へ

(6) 参加者：350人（登録数。うち外国からの無料参加は55人）、不在参加46人。

(7) 全面オンラインに変更したことにより、参加費の値下げを行った。これに伴い、支払い済みの参加料との差額、および不提供服务の実費の払い戻しを行った。

(8) 記念品として予定していた“Promenado en Hiroŝimo”（“Vojaĝo en Hiroŝima”改訂版）が発行元の技術的な理由で発行を断念するに至り（2022年1月に最終決定）、参加申込者に図書カードで返金する対応をとった。

2. 第109回日本エスペラント大会を、2022年9月23日（金・祝）～25日（日）に、八王子市学園都市センター（東京都八王子市）を会場に、オンラインとのハイブリッドで開催することを決定した。関東エスペラント連盟のメンバーを中心に、大会のための実行委員会を立ち上げ、主にオンライン会議で準備を進めている。また、オンラインをサポートする組織が「オンライン応援班」として改めて発足した。大会テーマは“Nova erao de komunikado kaj Esperanto post kronvirusa pandemio コロナ禍後の新しいコミュニケーション時代とエスペラント”。この大会では、初めて実参加とオンライン参加の料金を分けて設定した。

3. 第110回（2023年）以降の日本エスペラント大会の開催方法について検討を行った。第3回の日韓共同開催エスペラント大会は2024年以降になることが確定し、第110回は国内開催となるが、開催地・開催方法は決定に至っていない。

【7】 その他事業及び法人の管理（担当：総務部、財務部、ウェブ管理部）

【7.1】 基本方針と成果

1. 本会のエスペラント事業の核となる会員の活動を支援し、会員数の拡大・定着に努めた。
2. 各事業部門と連携し、事業が円滑に行われるよう支援した。
3. 今後起こり得る様々な状況に鑑み、本会のより効果的な管理・運営方法の見直しと確立に取り組んだ。特に、新任の役員等に対する運営上のルールや方針を記したマニュアルを整備した。

【7.2】 総務部担当事業

1. 総務部の職務（庶務、会員管理、エスペラント会館管理活用、役員支援など）を事務局および関連委員会（選挙管理委員会、小坂賞委員会）の協力を得て、着実に実行した。
2. 事務局の課題には、財務部とともに事務局会議を6回開催し対応した。
3. 図書館の整備事業の中のデータベース作成作業（JEI創立100周年記念事業の継続）は、コロナ禍もありボランティアが確保できず、進まなかった。
4. 図書館整理作業は、コロナ禍でボランティアが確保できず、進まなかった。
5. 図書販売促進のため、行事を利用した機会の他、ウェブの活用を強めた。
6. エスペラント会館の今後に関し「エスペラント会館検討委員会」を発足させ、オンラインで11回の会合を行い、具体的な将来像の比較検討を進めた。
7. 本会事業の継承のため、および理事・協議員の資料へのアクセスを容易にするためのクラウド情報保管庫の利用を促進し支援した。
8. 緊急時対応マニュアルについては、最終案作成までには至らなかった。

【7.3】 財務部担当事項

中長期的な視野の下に堅実な収支運営に努め、本会の事業の執行を財務面から支えた。

【7.4】 ウェブ管理部担当事項

1. 本会のウェブページにて、情報公開、会員サービス、本会事業（行事や雑誌等）の広報を充実させた。特に、ウェブサイトの維持管理については、学習案内ページを十分に整備した。また、2021年1月4日に開設した点字ファイル保管庫については、エスペラントを広める会と連携して、2022年5月5日現在で、国内用にBES形式ファイルを25件、海外用にBRL形式ファイル96件の点字ファイルを保管した。
2. SNSや動画サイトについては、Twitterの複数担当者体制にしたが、まだ不十分であった。
3. 会員ページ（本会会員がパスワード付でアクセスするページ）の作成については、今年度は対応できなかったのを来年度の課題とする。
4. ウェブ共同運営体制については、今年度は充分に対応できなかったため、今後さらに検討する

ことを来年度の課題とする。

5. 販売図書管理の効率化のため、出版部、編集部、総務部（事務局）と協力してシステム化を検討することについては、今年度は十分に検討されなかったため、来年度の課題とする。
6. ライト層向けに、普及推進部、研究教育部と協力して「Saluton! エスペラントとは」を開設した。まだ不十分であるため、コンテンツのさらなる拡充を来年度の課題とする。

II 庶務事項

1. 会議の開催

1. 評議員会：6月20日
2. 理事会：4月10日（臨時）、5月23日、6月28日、7月4日、9月28日（臨時）、2022年3月20日
3. 業務執行理事会：6月1日（臨時）、6月22日（臨時）、9月5日、11月11日、12月4日（臨時）、12月21日（臨時）、2022年1月23日
4. 副理事長会：4月15日、7月8日、8月12日、2022年2月17日
5. 監査：5月22日
6. 協議員会：5月23日、2022年1月23日
7. 会員総会：9月19日、第108回日本エスペラント大会にて（オンラインで開催）

2. 会員

960（2022年初、個人会員908、団体会員52）

3. 役員・職員等の人事

1. 理事：瀬下政也が辞任（9月30日）。

以上